

論 文 内 容 要 旨

Dental health behavior of parents of children using
non-fluoride toothpaste: a cross-sectional study

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

社会歯科学講座 大 田 順 子

(指 導： 平 田 幸 夫 教授)

論文内容要旨

健康日本 21（第 1 次）における歯の健康分野の目標の一つに「学齢期におけるフッ化物配合歯磨剤の使用割合を 90%以上にする」があったが、この目標は達成に至らなかった。本横断研究の目的は、フッ化物が配合されていない歯磨剤を児童に使用させている保護者の特徴を検討し、普及を図ることである。

2010 年 12 月に 18 の小学校または学校歯科医に調査票を郵送した。調査票は児童（6～12 歳）が自宅に持ち帰り、保護者が記入後、学校に持参し、学校から 2011 年 3 月までに郵送により回収した。分析項目の全データがそろい、かつ歯磨剤を使用すると回答した児童の保護者 6,069 名を対象に、歯磨剤へのフッ化物配合の有無と歯磨剤選択理由、児童の歯磨き方法および児童へのう蝕予防の心がけとの関連を分析した。本研究は神奈川歯科大学研究倫理審査委員会の承認（第 134 番）のもとに実施した。

歯磨剤使用者のうちフッ化物無配合歯磨剤使用者の割合は 5.1%であった。フッ化物無配合歯磨剤の使用者の割合は、歯磨剤選択理由として歯周病予防、口臭対策、歯石予防を挙げた者、また歯磨剤選択理由としてフッ化物配合、低価格、味がよいを挙げなかった者、歯磨剤の使用頻度が時々と回答した者、4～6 年生に有意に多かった。フッ化物無配合歯磨剤の使用と児童のう蝕予防のための心がけとの間には有意な関連はなかった。マルチレベル（第 1 レベル：個人、第 2 レベル：学校）ロジスティック回帰分析の結果、フッ化物無配合歯磨剤の使用は、歯周病予防（オッズ比：1.44）を歯磨剤選択理由に挙げることで、フッ化物配合（0.40）、味がよい（0.49）、低価格（0.50）を歯磨剤選択理由に挙げないこと、および歯磨剤使用頻度が時々（1.39）であることと有意に関連していた。

歯磨剤自体を使用しない者については、当講座の山本ら（2010 年）の研究によってすでに検討されている。本研究では、歯磨剤使用者に限定してフッ化物が配合されていない歯磨剤を使用している児童の特徴を分析した。その結果、フッ化物配合ではなく歯周病予防を理由に保護者が歯磨剤を選択している点、歯磨剤の使用頻度が低い点、ならびに歯みがき回数が少ない点が強調すべき問題点であることが判明した。

これらの結果から、保護者に対して、児童には歯みがきが重要であることとう蝕予防対策としてフッ化物配合歯磨剤を使用することが重要であることを啓発することが求められる。